

令和元年 伴走型小規模事業者支援推進事業

地域経済動向調査まとめ

平成 31 年 3 月値（令和元年 6 月 5 日発行）

この調査は、経営者のみなさまが、経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的として作成しました。たつの市及び西播磨地域の経済動向が、全国と比較してどのような特徴があるのか等を分析しています。事業活動の参考にさせていただければ幸いです。

調査データ出先

調査名（実施機関）	調査対象	調査対象期
西播磨地域景況調査（西播磨県民局）	管内中小企業者等 4 業種 141 社	平成 31 年 1 月～3 月期
兵庫県の経済雇用情勢（兵庫県）	兵庫県の中小企業	平成 31 年 1 月～3 月期
小規模景気動向調査（全国商工会連合会）	全国約 300 商工会による調査	平 31 年 3 月期
たつの市中小企業景況調査（たつの市商工会）	管内 32 事業所	平成 31 年 1 月～3 月期

たつの市商工会

目次

I 産業全体の業況の推移

II 調査範囲別景気動向

III 業種別経済状況

① 製造業

② 建設業

③ 小売業

④ サービス業

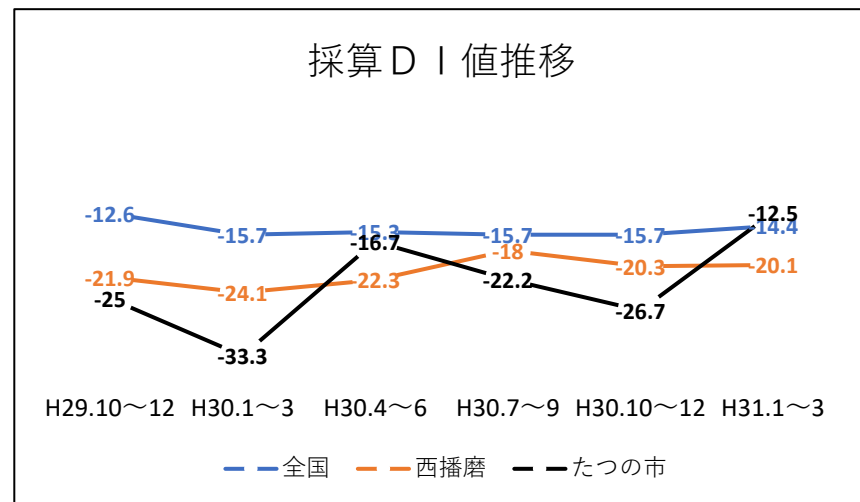
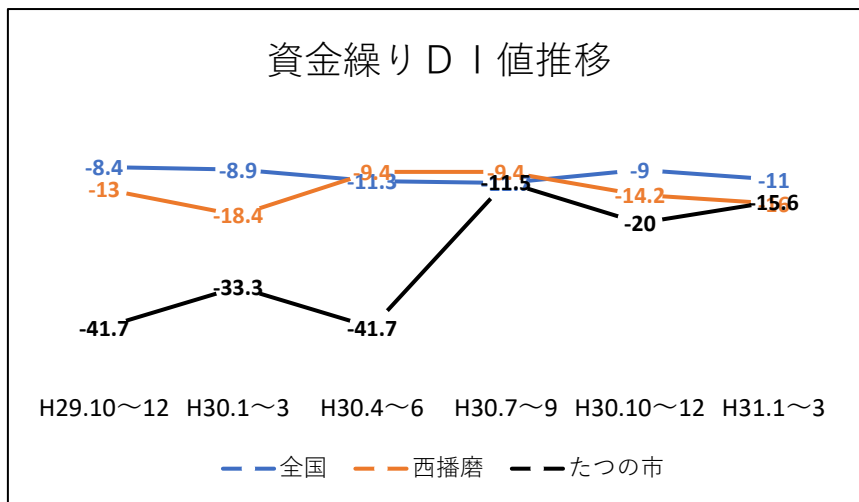
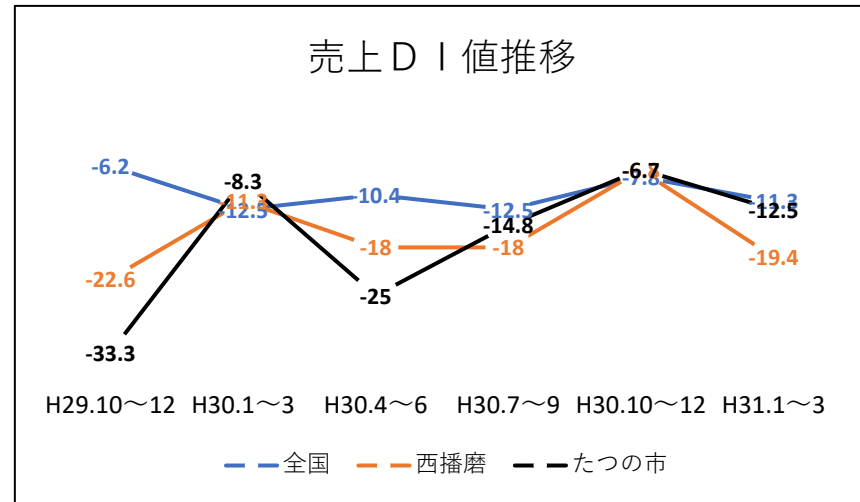
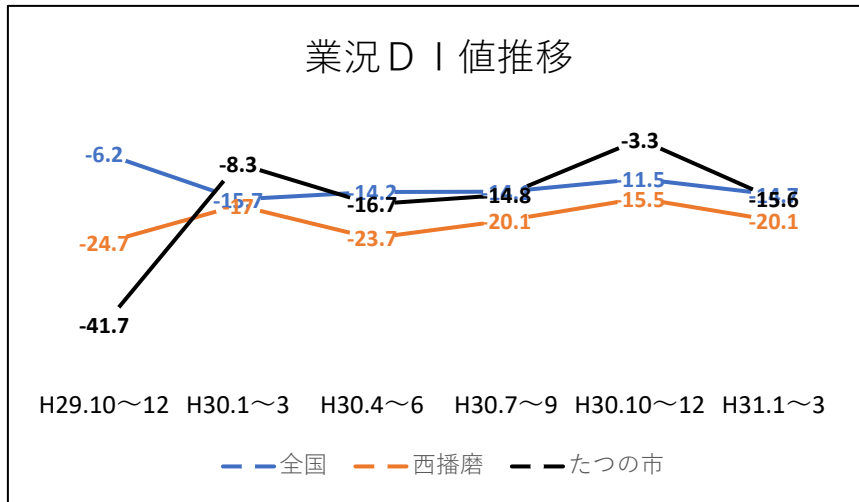
⑤ 業種別 D I 値比較

V 雇用状況

VI 西播磨管内の企業倒産件数及び負債金総額

VII 総括

I 産業全体の業況の推移 <DI値＝「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す>



<概要>

前回調査時と比較すると、業況D I、売上D Iは、全国、西播磨、たつの市とも悪化している。資金繰りD Iは全国、西播磨では悪化しているが、たつの市は改善している。採算D Iについては、全国、西播磨は横ばいであるが、たつの市は改善している。西播磨のD I値は、全項目で全国、たつの市の値を下回っており、西播磨地域の景気の後退が顕著である。たつの市については、全国と近いD I値を示しているが、本調査期では、採算D Iが大きく改善した。全国的には前年以降は緩やかに回復傾向であったが、今回調査期では全国、西播磨、たつの市のいずれも停滞感が強まっている。

II 調査範囲別景気動向

<全国>

全体的には横ばいの傾向であるが、一部業異種に停滞感が根強い。人手不足や資材価格高騰つき成す術がなく、企業努力に限界を感じる事業者も多くなっている。

<兵庫県>

一部に弱めの動きがみられるものの、基調としては緩やかに拡大している。企業の業況判断は、足もと悪化し、先行きも悪化すると見込んでいる。個人消費は、緩やかに持ち直し、輸出は、増加基調にある。

<西播磨>

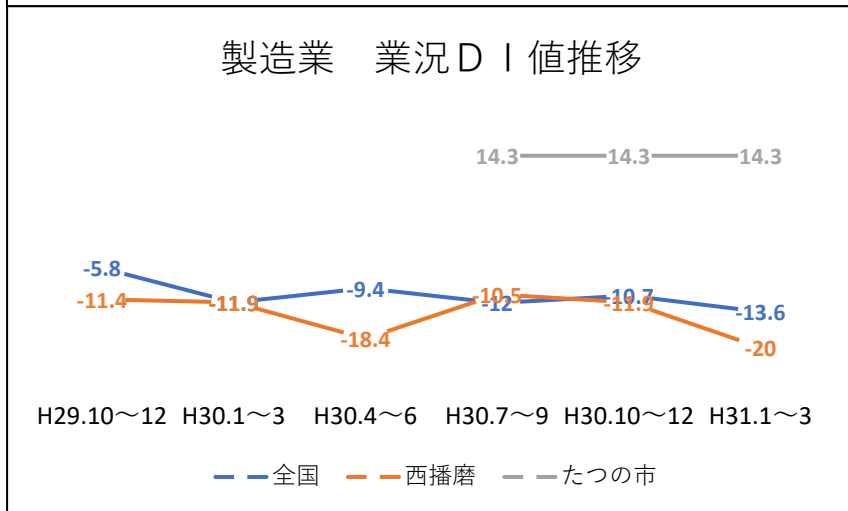
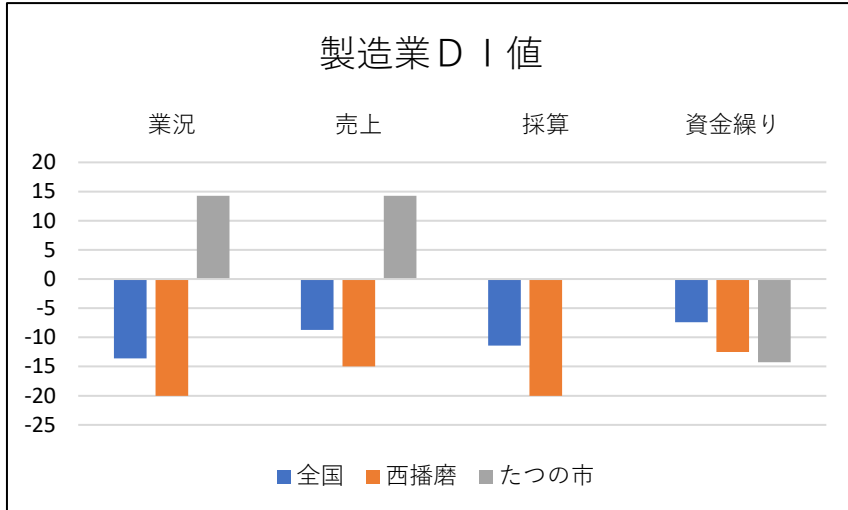
業況D Iはサービス業を除き悪化している。仕入単価の高騰及び人材不足が経営を圧迫しており、それに伴い資金繰りD Iは大きく悪化している。

<たつの市>

・業況D I、売上D Iは昨年4月以降改善傾向であったが、今回調査で悪化に転じている。

Ⅲ 業種別経済状況

① 製造業



<全国>

業況 D I 値は再び悪化に転じている。菓子製造業では、季節関連商品の売れ行きが好調で改善が見られたが、これまで好調であった輸送用機械器具製造業は需要に陰りが出てきた他、米中貿易摩擦の影響により、電子部品製造業において、受注が減少傾向にある。

<兵庫県>

生産活動は、一部に弱めの動きが見られるものの、緩やかに持ち直している。設備投資については改善している。雇用については、技術系の人材確保に苦慮している。

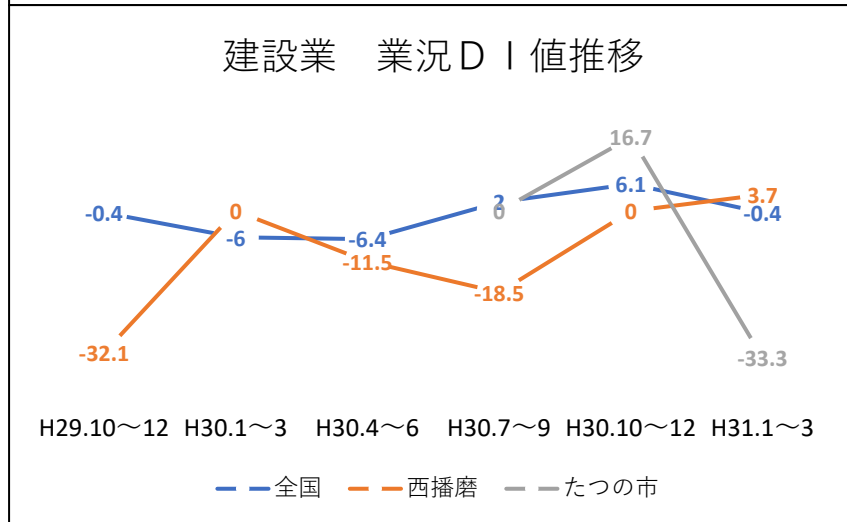
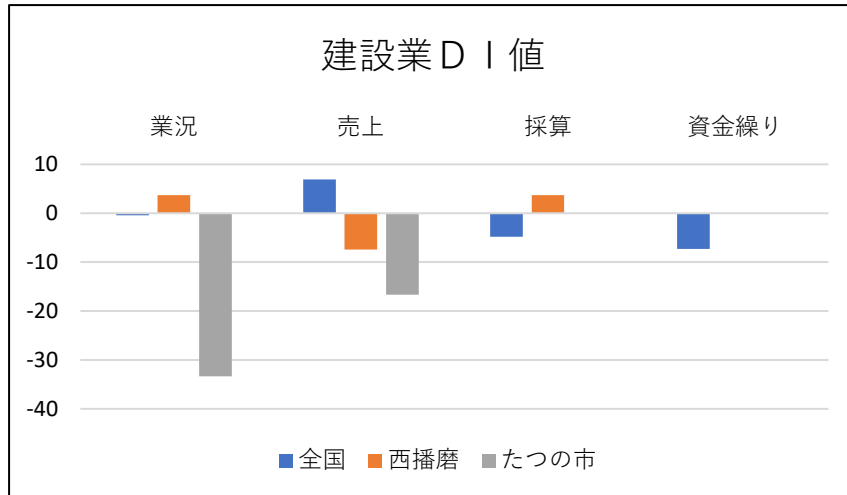
<西播磨>

業況 D I 値は前回調査時と比較して 8.1 ポイント悪化している。業況、売上、採算で、全国、たつの市の D I 値を下回っている。独自の技術を積極的に発信する事業所には引き合いが増えるなど、業者間の格差が広がっている。

<たつの市>

業況及び売上は「好転」が全国、西播磨を大きく上回っている。一方で、採算及び資金繰りが悪く、利益確保に苦心をする事業所が多くなっている。

② 建設業



<全国>

D I 値は昨年 9 月調査時以降回復基調であったが今回調査でマイナスに転じた。民需を中心に消費税率増税前の駆け込み需要が発生したため工事量は潤沢にあり、小規模事業者も仕事を確保できている。人手不足から、契約を交わしても、実際の稼働が遅れることが多く、現場で混乱を来している。

<兵庫県>

新設住宅着工件数は前年を上回っているが、県内の公共工事は前年度比22.1%減であった。

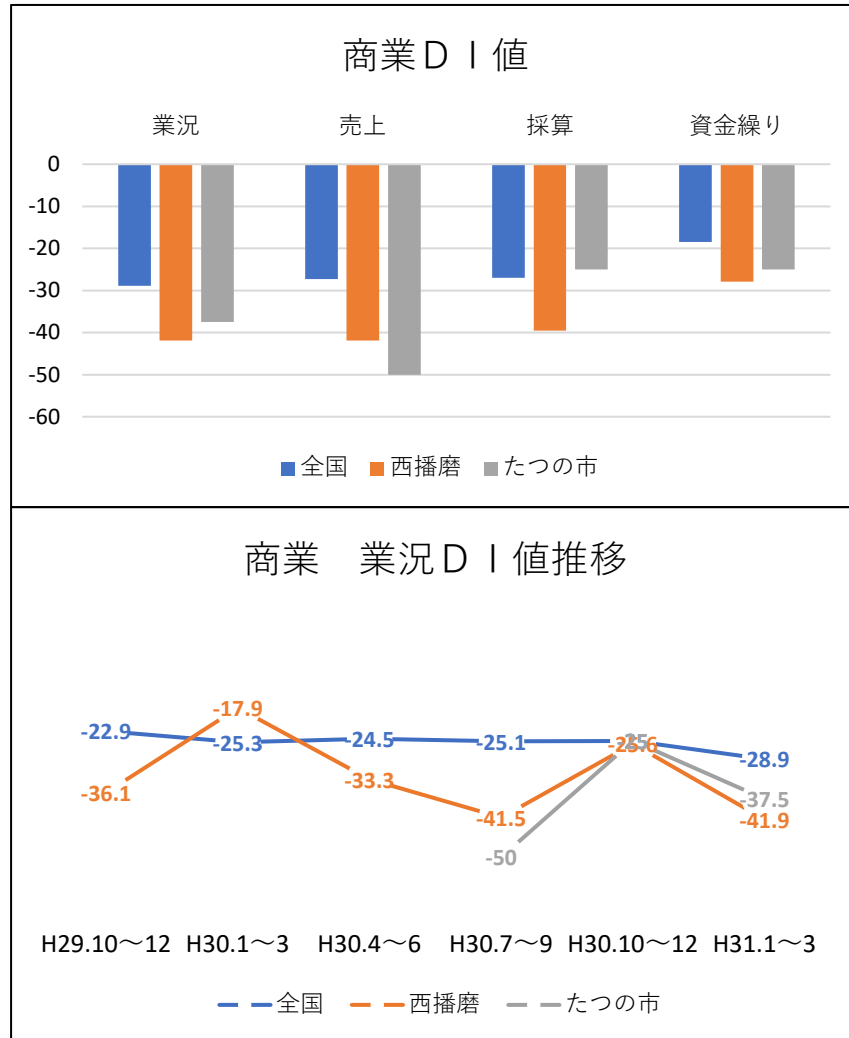
<西播磨>

D I 値は前回調査時と比較して 3.7%改善し、全国、たつの市を上回っている。資金繰りについては、改善と悪化が均衡している。

<たつの市>

今回調査で業況が大きくマイナスに転じた。土木工事業では堅調に受注が推移しているが、建築、設備工事関係で受注が停滞した。

③ 商業



<全国>

業況は緩やかに悪化傾向である。年度末シーズンであり、生花や贈答品小売業が売上を伸ばしている。キャッシュレス対応については、インバウンドや観光客相手の小売業を除くとニーズはあまり高いとは言えず、導入しても必ずしも売上に結びついているとは言えないとのコメントがあった。

<兵庫県>

百貨店・スーパー販売額は、2年8ヶ月連続で前年同月を下回った。コンビニエンスストア販売額は、5か月連続で前年同月を下回った。また乗用車販売台数も、2か月連続で前年同月を下回るなど、全体的に消費は停滞している。

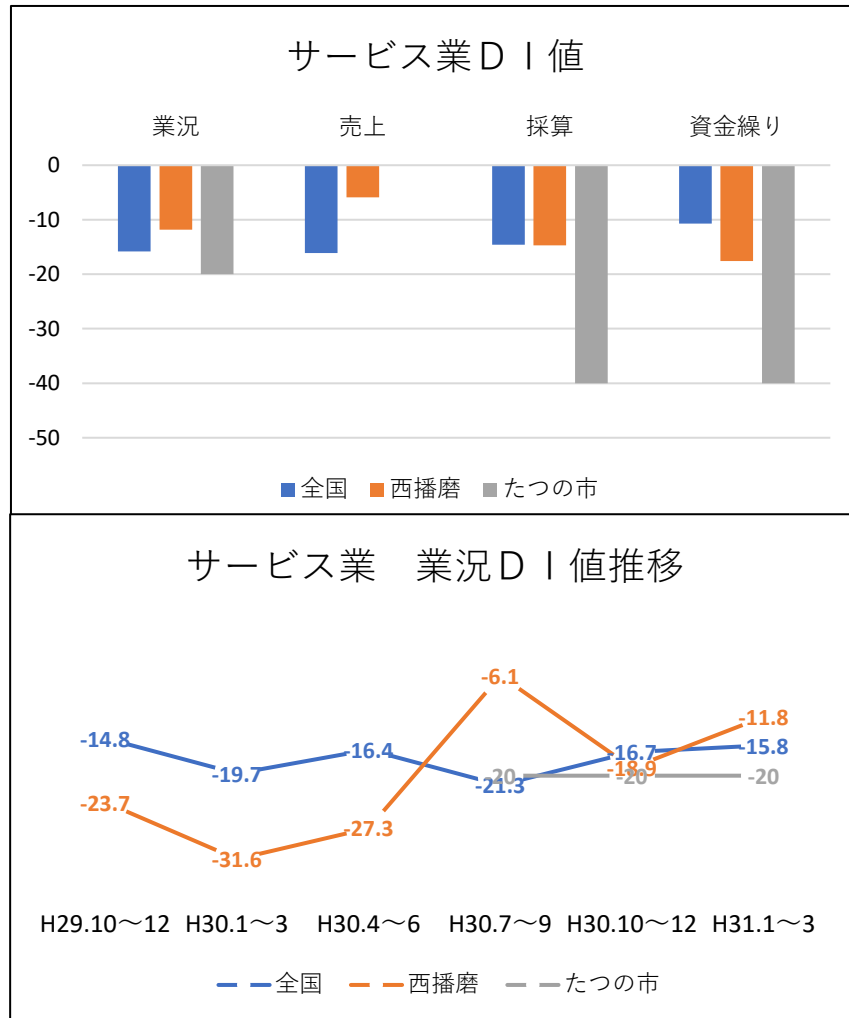
<西播磨>

業況 D I 値は前回調査時と比較して 16.3 ポイント悪化しており、全国、たつの市の水準を下回った。

<たつの市>

業況、売上 D I は西播磨、全国と同様に低く、特に売上 D I 値が他の調査項目より悪い。

④ サービス業



<全国>

観光業を中心に売上を伸ばしているが、他業種へは効果が波及していない。運輸業では、通常の荷物に加え、引越需要から物流量が増加しており多忙を極めているが、ドライバー不足が深刻で、稼働率は悪い。またクリーニング業では、石油由来のボイラー燃料やドライクリーニング用洗剤等の値上がりが負担になっている。

<兵庫県>

働き方改革への対応に苦慮している事業所が多く、人件費の高騰に悩まされている。

今年は休日が多く、旅行者数は順調に増加しており、海外旅行者数も過去最高になると見込まれている。

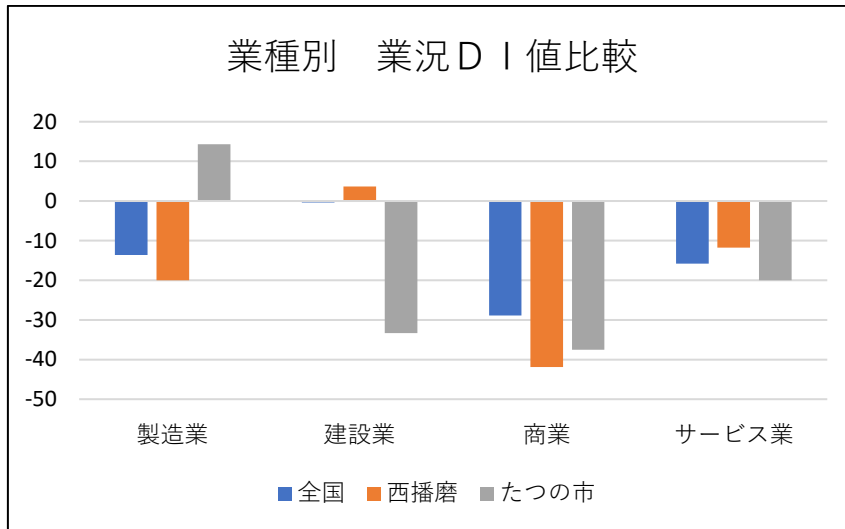
<西播磨>

業況 D I 値は前回調査時と比較して△18.9 から△11.8 に 7.1 ポイント改善している。業況、売上は、全国を上回っているが、採算、資金繰りは下回っている。

<たつの市>

売上は均衡しているが、業況、採算及び資金繰りが悪く、利益の確保に苦心している。

⑤ 業種別 D I 値比較



製造業は全国、西播磨での景況はマイナスであるが、たつの市では、引き続き好況が不況を上回っている。

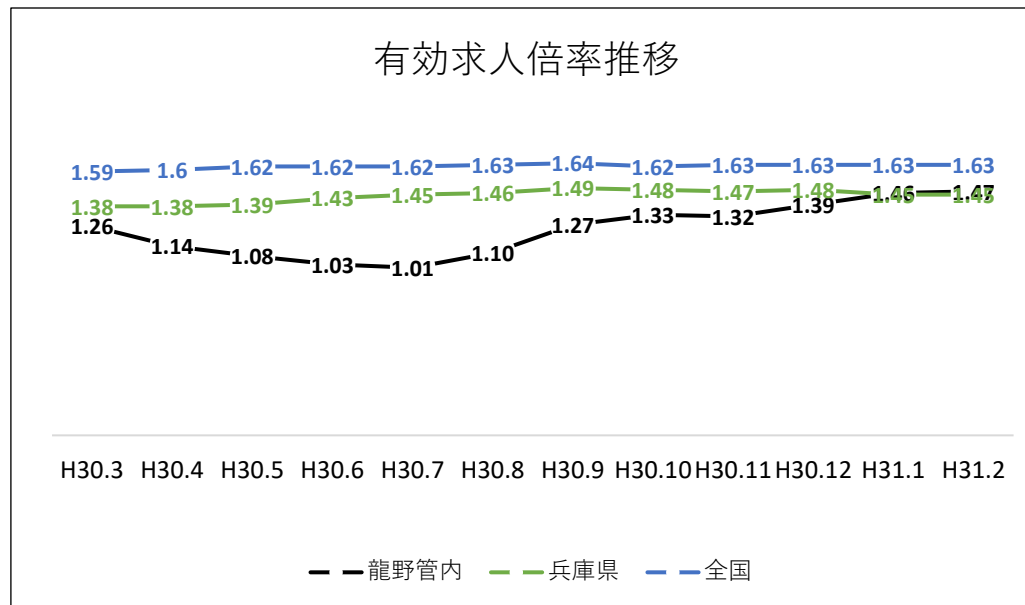
建設業については、全国的には災害復旧工事やオリンピック等を控えたインバウンド効果、また消費増税前の駆け込み需要で引き続き好調であるが、たつの市では業況が大きく悪化した。

商業、サービス業については全国、西播磨、たつの市のいずれも不況を示しており、特に他の業種と比較して商業の D I が継続して悪い。

V 雇用状況

平成 31 年 2 月期の有効求人倍率は、全国 1.63 倍、兵庫県 1.45 倍、龍野管内 1.47 倍となっており、龍野管内で兵庫県の倍率を超え人手不足感が高まった。業種別では特に製造業、建設業、サービス業での不足感が強く、人件費の高騰により今後もこの傾向が続くことが予想される。この 1 年の推移では、全国的には 1 年にわたり横ばい傾向であるが、兵庫県では僅かではあるが充足感が広がっている。龍野管内においては平成 30 年 7 月には 1.01 倍を示し充足感があつたが、8 月以降上昇に転じ、人手不足感が強まっている。

たつの市商工会の調査では、どの業種においても人手不足感が強いが、製造業、サービス業でこの傾向が顕著である。

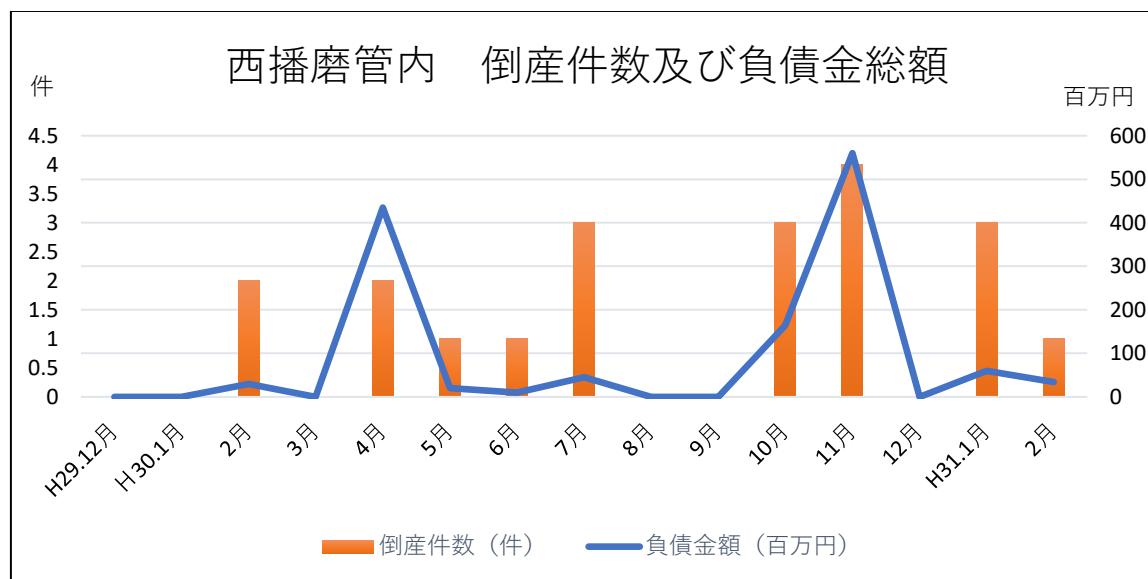


有効求人倍率 : 求人数 ÷ 求職者数 (例 仕事が 20 件 求人応募者 10 人 なら 2.0 倍)

VI 西播磨管内の倒産件数及び負債金額総額

西播磨の倒産件数は昨年12月は0件であったが、平成31年1月3件、2月1件となった。負債金額は1月60百万円、2月34百万円となり負債総額は大きくない。

兵庫県下の倒産件数は、平成30年12月期28件、1月期51件、2月期25件となっている。負債増額は、平成30年12月期63億29百万円（対前年同月比247.6%増）、平成31年1月期34億89百万円（対前年同月比33.4%増）、2月期34億53百万円（対前年同月比8.1%増）と、いずれも前年同期を上回っている。



Ⅶ 総括

全国的な産業全体の景況感は、前年同月と比較すれば改善しているが、全体的には停滞感が強まっている。年間を通して天候不順や自然災害による景気低迷の誘発懸念があり、また貿易戦争による世界的な生産調整の余波により小規模企業の景況感は一進一退である。冬の寒さが和らぎ、また積雪が少ないことから観光業を中心に売上高が増加したことや、建設業で工事が進捗したとのコメントがあった一方で、人手不足や資材価格上昇については成す術が無く、企業努力だけでは経費上昇分を補填することができないとした悲観的な声もあった。

たつの市の業況判断DIは、平成30年以降は全国と同等の水準となり、いずれも西播磨の水準を上回っており、今回調査でも依然西播磨の景況は上回っているものもいるものの、全国の水準は僅かに下回った。特に建設業における悪化が著しく、建築、設備関係の需要は停滞傾向である。製造業では大手製造業の下請け事業所を中心に、引き続き堅調な受注状況であったが、世界的な貿易戦争による生産調整への懸念から、先行きは不透明である。商業については、すべての調査項目で全国と同じ傾向にあり、引き続き厳しい状況が続いている。サービス業については若干の改善が見られた。

業種別では、商業、建設業の業況が悪く、製造業、サービス業では、好況と不況が均衡している。またいずれの業種においても、仕入単価の上昇が顕著で、採算及び資金繰りを圧迫している。人手不足の影響による賃金高騰も採算に悪影響を及ぼしている。

本年10月に控えた消費増税については、国のキャッシュレス化に伴うポイント還元や、レジ導入補助金の施策に対しても、導入済み又は導入予定の事業所も少なく、制度の普及に向けた情報提供が課題となっている。

雇用状況は、全国の状況より指標は良好であるが、龍野管内でも兵庫県の水準を超えて引き締まりに転じており、地方における人口減少とともに大きな問題となっている。

以 上